豊かな体験活動【ふるさと学習】
～ふるさとを知り、ふるさとに学び、ふるさとに活かす～

滋賀県 神崎郡 能登川町
能登川町立能登川中学校

１．本校の体験活動への取組みの経緯

本校の校訓は、「強く、正しく、たくましく」で、全職員が「いのち・人権を大切にする心の育成と、ふるさとの歴史・文化・人材に学ぶ体験的な学習」の推進に全力で取組んでいる。系統だった体験活動への取組みは平成１１年度より始まり今年度で４年目になる。初年度は３年生が半日だけ職場訪問し、その取組みに要した時間も十数時間であった。平成１２年度より、すべての学年で体験活動をカリキュラムに組み入れ、年々、その内容を充実させている。本年度は総合的な学習の時間のうち約５０時間をこの活動に用いている。本校ではこの活動を「ふるさと学習」と呼んでいる。

２．本年度の研究テーマ及びこの学習でのねらい

（１）研究テーマ

「ふるさとに育まれ、ふるさとに活きる、心豊かなたくましい生徒の育成を目指して」
～豊かな心を育む体験活動を通して～

（２）ねらい

本校では地域との関わりを大切にした体験学習を実施してきた。ふるさとの自然・文化・歴史・人からふるさとについて学び、人々とのふれあいを通して、地域・人に対する思いやりの心を持った生徒を育てたいと思っている。そして、ふるさとを愛し、誇りに思い、将来、自信を持って能登川を語れる人間に育てたいと考える。

この学習では、体験活動そのものと同じ程度に、事前・事後の学習に力を入れ、大切にしている。それが体験活動を意味づけ、より高い価値のものにするからである。同時に、自ら課題を見つける力、考える力、問題を解決する力、まとめ・表現する力などを身につけ、そして、生徒の「生きる力」にも結びつくものと思う。

（３）つけたい力

１年生
◎自分で課題を見つけ、考え、積極的に学習を進めていく力。
◎地域の人々とのふれあいを通して学び方やものの考え方を身につける。
◎自分たちで能登川を調べ、能登川のすばらしさを発見する。
◎調べた内容を正しく表現し、伝える力。

２年生
◎自分の特性をしっかりつかみ、主体的に学習を進める力。
◎職場でのマナーや礼儀を知り、人々とのふれあいを通して、学び方やものの考え方を身につけ、自分の生き方を考える。
◎仕事の内容、難しさ、厳しさ、楽しさなどを知り、自分らしい表現で人に伝える。

３年生
◎町の福祉の実態を知ることにより、自分の課題を見つけ、よりよく問題を解決していく力。
◎人々の幸せについて考え、人と助け合い、支え合うたくましい力。
◎ボランティアの意味、その大切さを知る。

（４）評価について

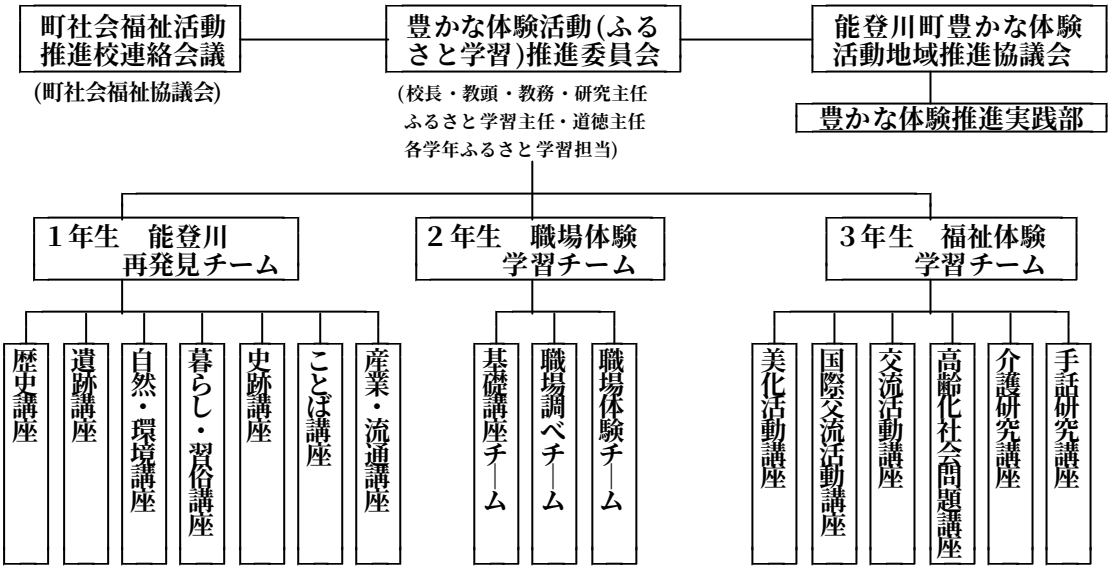
・生徒の自己評価、及び教師による生徒の観察、生徒がファイリングした作文や諸資料をもとに評価を行い、①～③の観点で所見として記入する。
・評価票は通知票に含んで生徒に渡す。

評　価　票

学　習　内　容	観　　点
１年生　ふるさとを知ろう （能登川再発見）	①自分で課題を発見し、その課題を解決することができる。
２年生　ふるさとに学ぼう （職場体験学習）	②課題に関する情報を収集するとともに、有用な情報を選択活用し、その過程や結果を適切に表現することができる。
３年生　ふるさとに活かそう （福祉体験学習）	③課題に意欲的に取組み、粘り強く努力することができる。
所　見	

３．研究及び取り組みに関わる組織

（１）学校としての推進体制



（２）推進地域としての取り組み

・本町では保・幼・小・中・高の体験活動担当者による「能登川町豊かな体験活動地域推進協議会」を立ち上げ、町として体験活動の体系化、交流、情報の交換を積極的に行っている。
・推進協議会には町としての一貫した企画、運営、まとめを図る総合企画部と、２つの実践部会（保･幼･小部会と中･高部会）を置き、研究、協議をかさねている。
・本年度は各校園の体験活動をウェビング方式により体系的にまとめた。

（３）学校支援委員会

① 学校支援委員会の構成

役　職　名　等	備　　考
郷土史研究家	道徳ゲストティーチャー
能登川町消防団団長	道徳ゲストティーチャー
能登川町社会福祉協議会会長	道徳ゲストティーチャー
ＰＴＡ会長	保護者代表
前滋賀県高Ｐ連会長	校医
人材バンク代表	地域人材バンク代表

② 学校支援委員会の主な活動内容

・体験活動内容の検討　　・職場体験学習における受け入れ先の開拓
・各種講座の指導員(ボランティア)の開拓

４．平成１４年度の取り組み内容

１年生	２年生	３年生
１．オリエンテーション ２．町内オリエンテーリング（能登川探検） ３．基礎講座 ①交通マナー教室 ②図書館博物館利用講座 ③コンピュータ講座 ④話し方講座 ４．各講座についてのオリエンテーション ５．講座別の学習 A　歴史講座 B　遺跡講座 C　自然・環境講座 D　暮らし・習俗講座 E　史跡講座 F　ことば講座 G　産業・流通講座 ６．講座別学習のまとめ ７．発表会	１．オリエンテーション ２．生き方を考える(道徳) ３．先輩の職業体験に学ぶ ４．基礎講座 ①マナー講座 ②話し方、アポ、電話講座 ③依頼状、礼状講座 ④インタビュー講座 ５．職業調べ ６．職業調べの発表 ７．訪問する職場との打ち合わせ、準備 ８．職場体験学習（３日間） ９．礼状書きと体験のまとめ 10．発表会	１．オリエンテーション ２．福祉講演（盲導犬ﾕｰｻﾞｰからのﾒｯｾｰｼﾞ） ３．ガイダンス講座 ①介護、介護保険 ②ゴミ問題、リサイクル ③下水処理 ４．各講座についてのオリエンテーション ５．講座別の学習 A　美化活動講座 B　国際交流活動講座 C　交流活動講座 D　高齢化社会問題講座 E　介護研究講座 F　手話研究講座 ６．講座別学習のまとめ ７．発表会 ８．福祉講演（ボランティアの現場から）

５．職場体験学習（２年生）の取組みの具体的な流れ

（１）オリエンテーション（職場体験学習ガイダンス）

・職場体験学習の意義を理解し、職場体験学習に向けての意識を高めるために、その概要を知らせ、一年間を通しての展望を持たせる。

・パソコン、ビデオプロジェクター、スクリーンを使って写真や図を用い、生徒の興味や関心を高めるように説明を進める。

（２）道徳「裏方人生に悔いなし」

・勤労の尊さを理解するとともに、社会への奉仕の気持ちを深め、進んで人々のために力を尽くしていこうとする態度を養うことをねらいとする。

・グランドキーパーという裏方の仕事に誇りを持っている主人公の生き様を通して、仕事にたいする責任感、喜び、苦労を感じ取らせる。

（３）先輩の職場体験に学ぶ（これからの職場体験学習に役立たせる）

・職場体験をするにあたってどのような準備と学習と心構えが必要なのかを知らせる。また、体験を経て将来生きていくうえでどのような力がつくのかを理解させる。

・卒業生の職場体験の作文（体験談と感想文）を資料として、その生徒のものの考え方や生き方の変容をつかみ、人間としての成長を読み取らせる。

（４）基礎講座

①マナー講座

・職場体験学習にむけて、社会人としての一般的なマナーについて知る。

・社会人として旅行会社で精力的に働いておられる方を講師に招いて、体験談をもとにして、仕事をするときの心構えやマナー、それに、職業人として必要とされる資質などについて聞く。

②話し方・アポイントメント・電話講座

・挨拶の仕方、話し方、電話のかけ方など、社会人としてどうしても身につけておかなければならないことがらについて学習し、生徒が自主的に職場の方とより良い接し方ができるようにする。

・生徒と生徒、生徒と教師で挨拶や目上の人との話し方、電話での対応の仕方等を練習する。悪い例や良い例についても考える。

③依頼状・礼状講座

・職場体験の依頼の仕方やお礼について考える。

・良い依頼状文、心のこもった礼状を実際に書いてみる。誠意をどのようにして伝えるのか、相手に対して失礼にならないようにするにはどうすればよいか考える。

④インタビュー講座

・情報を集めたり、それを調べたりするには、新聞や書籍、インターネットの利用などの方法があるが、直接、当事者にインタビューすることも大切である。ここでは、インタビューの方法や質問の内容、また、インタビューするときのルールやマナーについて学ぶ。

・職場体験学習でお世話になる職場の方にインタビューする方法や内容について考える。（インタビューは職場体験の中で実施する。）

（５）職業調べ

・身近な職業について夏休みに小グループで実際に家の近くの職場を訪ねたり、身近な大人に聞いたりして調べる。テーマ等はグループで考え、仕事の内容、労働条件、資格・免許、従事者の話、生徒の感想などをまとめ、９月に発表する。

（６）職場体験学習

①訪問する職場との打ち合わせ、準備

・電話で確認をとり、日時を決めて職場へ出向き、出勤時間などについて打ち合せをする。
今までに学習した講座の実践の場である。

教師の対外的な動き
・町商工会への挨拶、職場体験学習への協力依頼（５月） ・職場体験学習代表者会（中学校７名、職場１０名）（６月） ・町内事業所（約５３０カ所）、公共機関、金融機関などへの協力依頼・受け入れ依頼の文書配布（７月初旬） ・電話により約１００カ所に生徒の受け入れ依頼（７月下旬） ・受け入れＯＫの職場を訪問し、可能な人数、日時、仕事の内容などの打ち合わせをする。 ・校長からの正式依頼文書を各職場に届ける。 ・職場から人数、日時の変更の連絡を受けて、校内で調整する。

②職場体験学習

・11 月 11 日(月)～ 15 日(金)のうち学級ごとに３日間連続で実施する。

・３日間、生徒は自宅から直接職場に出勤し、退勤後、家に帰る。毎日、帰宅後、職場体験日誌を書く。また、３日間の体験を終えたらレポートを書く。

教師の対外的な動き
・担当する職場を訪問し、生徒の様子を見たり、職場の方に生徒や仕事についての話を聞く。また、デジタルカメラで生徒の仕事ぶりを撮る。

③礼状書きと体験のまとめ

・各自が職場にお礼の手紙を書き、代表者が届ける。

・職場の様子、体験してきたことがら、感想などをまとめ、発表会に向けての準備をする。
また、発表の仕方、発表に必要な物品、機器についても準備する。

教師の対外的な動き
・校長からのお礼の文書、アンケート依頼文書を各職場に届ける。 ・職場の声を聞く会（１２月） ・発表会への出席依頼と要項を各職場に届ける。

（７）発表会

・各学級で保護者、職場の方を招いて発表する。実行委員の生徒が会場の設営、司会進行、および職場の方の接待を行う。

６．職場体験学習の成果と今後への課題

（１）成果

・ほとんどの生徒が、仕事の楽しさと厳しさの両方を体験できたと言っており、有意義な３日間を過ごすことができた。また、正しい職業観や進路に対する前向きな気持ちをもつようになった。

・協力的な職場が多く、地域の人たちは「能登川の生徒を育てる。」という気持ちで対応してくれていることが分かり、地域と学校のつながりが深まった。

（２）課題

・職場にとっては、３日間中学生にさせることを考えるのに苦労されているところや、１日あるいは２日間だけにしてもらいたいという要望もある。また、職場の都合で生徒の受け入れを断られる場合もあり、新たな職場を開拓する必要がある。

・何よりも一番大切なのは生徒の安全である。けがや事故に備えて保険に加入するが、その内容など難しいものがある。（来年度から町でまとめて体験学習に関わる保険に加入する予定である。）

・評価方法の再検討が必要である。本年度は生徒の自己評価と、担任教師・職場担当教師による評価の二本立てで実施したが、次年度は職場からの評価も加味したものにしたい。また、各観点について評価するうえで生徒の変容や成長を観る具体的な項目についても検討したい。